

# 若い人にもものづくりの楽しさを 知ってもらいたい

山本 恵子

工場長 / 生産管理・生産指導

子供の頃からミシンで縫うことが好きだった山本さんは、結婚を機に井原市に移住。求人広告で松井被服の募集を知り、「私を呼んでいる!」と直感し入社を決めたといいます。入社直後は、縫製担当からスタートし、すべての生産工程を経験した後、現在は工場長として、スケジュール調整など生産管理全般やサンプル縫製のほか、技術指導などの現場を束ねる役割を担っています。

今年で入社28年目となる山本さん。若手社員に対しては、自分の経験から「同じ作業の繰り返しだと好きな仕事も辛くなるだろう」と考え、いろいろな作業が出来る様な工程を組んだり、段階的に縫製技術が学べる機会を作ったりすることで、ものづくりに興味を持ち、この仕事を続けたいと思える様な環境づくりに注力しています。

山本さんはこだわりのあるものづくりを進めるためには、日々のコミュニケーションが重要だといいます。「ちょっとした作業でも、自分は上手く縫えても、他の人も同じように縫えるとは限りません。それぞれの特性をお互いに理解できている環境が質の高い製品づくりには必要であり、そのためには「私はこうなだけで」と伝えあうことが重要です。」「私自身、若い人の考えを聞くことで新たな発見をすることがよくあります。各々のちょっとした気づきを大切に、こだわりのあるものづくりに繋げていきたいですね。」



## もっと生の声

### Q & A

— やりがいは何ですか？

入社時はミシン針の付け方すら分からなかった社員が、一つ一つ技術を身に付け成長して行く姿を見ることがやりがいでもあり、喜びでもあります。また、入社から28年目の今でも、1つの商品が何人もの手を経て形作られていく様子に、毎日ワクワク感が止まりません。

— 心がけていることはありますか？

生産性を落とさないなかで、細かなところまで気を配るようにしています。細部に注意して仕上げると製品の「面(つら)が良くなる」んです。お客様から「すごく綺麗に仕上がっていますね」と気づいていただけることが、私自身のやりがいにも繋がっています。

— 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。

ものづくりにはゴールはありません。失敗することもあります。考え次第でチャンスにもなります。また、固定概念は人と触れあうことでしか変わらないと思います。いろいろな人と接する中で、新しい発見があり、自分も成長していくことができると思います。

